

## リーディングDXスクール事業【実践事例】

防府市立大道小学校（山口県）

## 【取組内容】「学習支援ソフト」を活用した個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実



子どもたちが自分の考えを発表したり、クラスメイトのカードを比較したりすることで、対話的な学びを実現している。

また、様々な教科・学習活動場面で「シンキングツール」を用いて、想像しながら考えを広げたり、比較しながら考えを深めたりするなど、思考力の育成に取り組んでいる。



デジタルドリルの活用により、教師側からの課題のみならず、個々の学力（段階）に応じた取組を保障することで、学び直しの機会や未習の内容に取り組む機会、学習へ向かう意欲や関心を高める機会の創出を行っている。

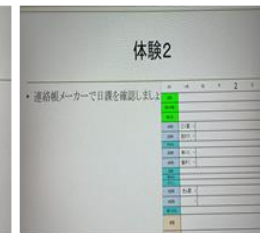
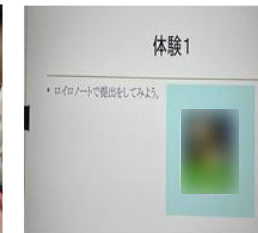
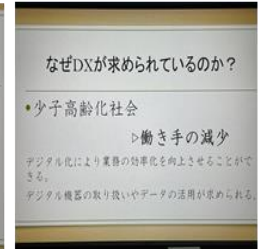
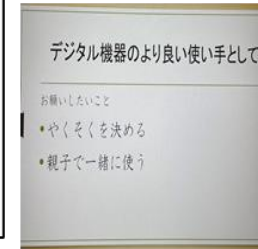
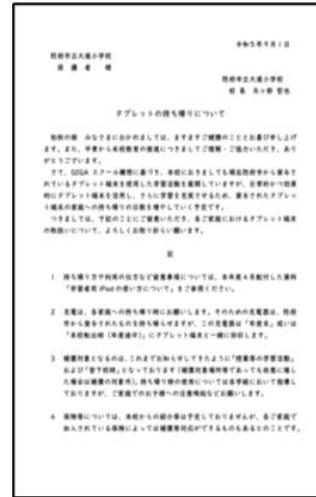


【取組内容】 端末の日常的な持ち帰りによる、「デジタルコンテンツ」を活用した家庭学習の充実

端末の持ち帰りに関する「ガイドライン」を再検討し、あらためて保護者に説明資料を配信・配付した。それとともに、各学級で保護者説明会を開き、演習を通じて実際に体験してもらうことで、端末活用の重要性・必然性の理解の促進を図り、賛同を得ることができた。

また、家庭学習に必要な教材・教具の精選を図ることで、児童の端末の持ち帰りの負担・支障を軽減し、保護者の更なる理解を図った。

デジタルドリルの活用や電子連絡帳（本校作成）の利用により、教員・児童・保護者は端末の持ち帰りの利便性が実感できている。



## リーディングDXスクール事業【実践事例】

府中市立大道小学校（山口県）

【取組内容】クラウドの活用による校務の徹底的な効率化や対話的・協働的な職員会議・教員研修

随時、クラウド上で職員会議・連絡会における協議題を共有することで、「時間」「場所」を問わず、提案資料等の作成・検証を行うことができた。併せて、その利便性・課題などを共有する場を設けた。

また、端末・学習支援ソフトを用いた会議・研修・協議の機会を増やすことで、ペーパーレス化の推進とICT活用の機運を高めている。

Googleのチャット機能を活用し、情報共有だけでなく、ビデオ会議や指導案の検討・意見交換など、適宜協議を行うことのできる環境づくりに取り組んでいる。

会議という「形式」にとらわれず、自由に意見交換する場面が増えている。



## 【取組内容】 オンラインを活用した山口県立美術館学芸員による山口県ゆかりの「雪舟」作品の鑑賞授業

山口県立美術館の学芸員を招き、5・6年生が図画工作科の鑑賞の授業を行った。授業では、持参していただいた雪舟の水墨画(レプリカ)を題材に、雪舟の作品に対する児童の感想をデジタルツールを使って集計した。大型画面に映し出すことで自分とは違う作品の印象を「新たな発見」の共有を皮切りに、雪舟の技法のすばらしさやそれを支える「道具」などの説明を受けた。

その後、山口県立美術館と大道小学校をオンラインで結び、美術館の雰囲気味わいながら、16メートルにわたる長大な画面に移り変わる四季の景色を描いた雪舟の大作「四季山水図巻」の実物大(レプリカ)の紹介などを受けた。授業後、雪舟の作品のすばらしさや技法を間近に感じるために、「『実物=本物』を観たい」など、授業前より関心や意欲が高まった。



## リーディングDXスクール事業【実践事例】

防府市立大道小学校（山口県）

## 【取組内容】「メタバース」を活用した県内企業の「バーチャル職場訪問」

山口県産業政策課の協力を得て、5・6年生を対象にインターネット上の仮想空間である「メタバース」を活用して、キャリア教育「県内企業について知ろう」を実施した。

子どもたちは、自分が興味のある仕事・企業や地元防府市の企業のブースに入り、紹介動画を見たりクイズ等に答えたりすることによって、山口県内の企業について楽しく学ぶことができた。

コロナ禍が明けたとはいえ、以前のように地元企業の訪問は簡単ではないうえ、校区内だと訪問できる職種も限定されることから、児童にとって今回の活動は「『キャリア＝自分の夢』実現」の疑似体験として貴重な「第一歩」となった。



## リーディングDXスクール事業【実践事例】

防府市立大道小学校（山口県）

## 【取組内容】 学年等の発達段階に応じたタブレット等ICT機器の利活用

本校では、タブレット端末を「ふだん使い」することを念頭に、1年生の段階から、タブレットをはじめICT機器を毎日必ず授業の中に活用した活動を取り入れている。

教科学習はもとより特別活動においても大型画面による個々の考え・意見の共有、シンキングツールの利活用による授業展開や、デジタルドリルを活用して学力向上に活用している。また、特別支援学級におけるICT機器も活用しており、その効果も実感している。

タイピングに個人差が見られることから、今後は児童が意欲をもって取り組むことができる「仕掛け」を展開していく。

